建物被害の調査と
避難所・仮設住宅の環境改善
－日本建築学会の取組み－

日本建築学会副会長
松村秀一（東京大学）

1. 建物被害の調査

- 二つの大きな地震が28時間の間に続けて起こった。
- 木造住宅の被害が深刻であった。とくに古い木造住宅の耐震性が十分ではなかった。
- 歴史的建造物の被害が顕著であった。とくに、熊本城、阿蘇神社など。

前震と本震による建物被害

→耐震設計上どう考慮するか？
前震後の耐震性評価をどうするか？

前震後

本震後

撮影：古賀一八 (福岡大学)

被害は古い木造家屋に集中（地震から2か月後の益城町）
→耐震補強の必要性

撮影：高山峯夫 (福岡大学)

益城町では比較的新しい木造住宅にも倒壊したものがある

撮影：田中　圭（大分大学）

宇土市役所

建物用途によっては高い耐震性能を持たせるようにすべき

撮影：高山峯夫 (福岡大学)

地震の前の阿蘇神社（重要文化財）

熊本城に代表される重要文化財建造物等の国指定の建造物の一日も早い復旧が望まれることはもちろんですが、

地震の後

撮影：田中　圭（大分大学）

国指定以外のものは公的な助成措置がないものも多く滅失の危機に瀕しています。

それらを失うことは、文化財を失うというだけでなく、地域の歴史ある風景を失うことになります。

↓

【提言】（文化庁、国土交通省、熊本県震災復興対策本部、熊本県教育委員会、熊本市、宇城市、天草市、大津町に対して）

1　復興交付金による基金を用いた支援を行うこと

2　文化財建造物が集中する地区を重要伝統的建造物群保存地区にすること

3　歴史まちづくり法を用いた支援を行うこと

4　文化財建造物の再生にヘリテージマネージャーを活用すること

2. 避難所・仮設住宅の環境改善

建築家坂茂氏等による
簡易間仕切の設置

・密度を下げ，住棟間隔を広げて外部空間に余裕をもたせる
・長かった住棟を分割し，その隙間をつなげて小径とする
・各団地に集会施設を設け，配置上の拠点に置く
・集中型の大型駐車場を分割して配置　　等の改善案提示